

# 趣味の勧め

(財) リバーフロント整備センター理事 前田 光雄



昨夜は談論風発、いま貴兄が抱えている課題がよく解りました。また、貴兄のご苦労振りがうかがえて、私も同様な世界にいたころを懐かしく思い出していました。

ところで、昨夜のおしゃべりと食事は気晴らしになったでしょうか。

お話しをされていてまたお別れした後気になっていることは、ご多忙の余り、気分転換や気晴らしに割く時間はないのだろうかということです。

休日などのほんの一時、自身のため気分転換や気晴らしに時間を割くことをお勧めします。そうすることでかえって仕事に集中できる面もあるように思います。

こういう私もこの40数年間の大半、いまの貴兄と同様な環境にいて、その渦中、時間の隙間を見つけてやる同僚との飲酒や麻雀が、その後麻雀と引き替えに始めたゴルフが、気晴らしになってきたように思います。

趣味を意味する英語は三つあるようです。

最も一般的な言葉の〈Hobby〉は、ある程度の熱中と努力と時間をつぎ込んだものをいうようです。そこまでいかないのは〈Pastime〉といい、系統だった努力を必要としない気晴らしを指すようです。もうひとつ、ホビーが深められて技能はプロの水準に達しているが、アマチュアに留まっている状態は〈Avocation〉というようです。

まずはここでいう〈Pastime〉から始めることをお勧めします。

平均余命から考えると定年退職後20年も時間があるようですから趣味や楽しみに手を染めるのは退職後で充分との考えもあるかもしれません。我々に勧められている「ライフプランの作成」によれば、現役時代に、退職後のことを構想し、必要な経費などの準備を始めるとのことです。この中に趣味の時間とその経費を組み込むことも含まれています。

いま私はゴルフを唯一の趣味にしています。先の分類に従うと〈Hobby〉と言える状態です。

私はいま休日に、主に60歳前後の方々とゴルフ場で交流しています。そこで見聞していると、若いときからこのゲームに手を染めより多く楽しんできた方々は、その体力や表情、話題などから、その世界が豊かなことを感じさせてくれます。

私はゴルフしか知りませんが、その他の趣味の世界へもできるものなら若いときに入門し、社会生活

と調和させながら細々とでも続けているのがいいように思います。

リタイアしたものの、楽しみも気晴らしもなく、やりたいことの的も絞れず、広く浅く手を出してしまい、趣味の世界の奥深さや豊かさを感じられないまま人生の終わりを迎えたり、また、広く浅くさえも手が着かないまま終わる人生だって考えられます。

つらい例ですが、仕事一途に過ごしてきた私の大先輩は、リタイアした後アルコールに浸り、それが原因で、たった2年間で黄泉の国へ旅立たれています。人生のすべてを仕事に捧げたという点では、あるいはご自身は幸せだったのかもしれませんが。

私もゴルフに夢中になっていなかったら、好きな酒に溺れて今頃は体を壊していたかも知れないという思いがあります。ゴルフへの傾斜が飲酒への抑止に少しは役立っていますから、そのように思います。

私が趣味を持ってという言葉聞いたのは、結婚直前、職場の大先輩である仲人からでした。そしていま貴兄に勧められています。輪廻を感じます。

ゴルフの場合、〈Pastime〉ならそれはそれで楽しみですが、〈Hobby〉として技量向上のための努力をする傍ら、ルールをはじめゴルフの歴史とエッセーを嚙ると、球打ちだけでは得られない豊かな世界を感じることができます。その豊かさや楽しさはエッセイストの筆を追ってもらえれば存分に味わえます。もしゴルフに興味がおありなら、そこからこの世界に入る方法もあるでしょう。

ゴルフ場のハンディキャップ表示板を見ていると、大勢の方々がゴルフを〈Hobby〉として楽しんでいるようです。しかし〈Avocation〉の段階の方があるかどうかは知りません。それに至るには仕事の片手間ではよほど才能に恵まれなければ無理なように思います。

〈Pastime〉として始めたものが〈Hobby〉の段階になれば、〈Avocation〉に至らなくても、その世界の豊かな精神性を感じることができるようになります。ぜひ時間を割いて趣味の世界へ入られることをお勧めします。

その趣味の世界から仕事とそれを取り巻く世界を見ることもできるようになります。私の場合はゴルフを通じて人生を見ているところがあります。趣味の効用です。

くどくど申し上げましたが、最後に貴兄のご健勝ご活躍祈念申し上げます。